

中村たいすけ だより

14号

秋

発行責任者：中村泰輔 / 編集責任者：尾崎真太郎

情熱と行動 未来への責任

令和4年 9月議会

「令和4年9月議会 補正予算」
「西九州新幹線開業 他」

▲長崎駅にて出発を待つ西九州新幹線かもめ

日頃から大変お世話になっております。令和4年9月23日に西九州新幹線が開業となり、ブルーインパルスイベントもあって、大きな盛り上がりとなりました。私も早朝4時30分に長崎駅に到着して、一番列車の出発式に参加いたしました。今の盛り上がりを持続して、地域活性化につなげていくことが極めて重要です。見開きでも触れておりますが、次は全線フル規格の実現に向けて取り組んで参ります。

私の任期も残り半年となりました。この半年を1期目の集大成として結果を出すとともに、2期目の挑戦に向けて全力で取り組んでおりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

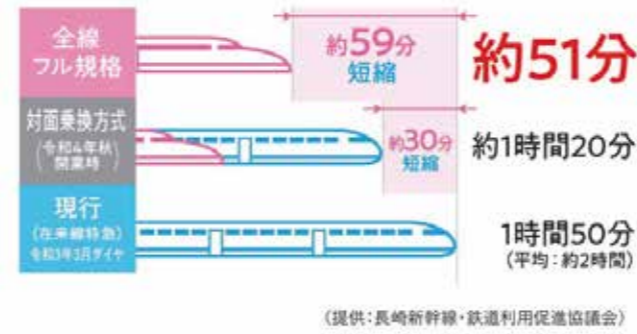
経済、
新幹線、
海洋産業。

中村
たい
すけ



西九州新幹線開業

時間短縮効果／長崎～博多の所要時間（最速）



令和4年9月23日に西九州新幹線（武雄温泉～長崎間）が開業となりました。これまで長崎～博多間は1時間50分以上を要していたのが、今回の開業に伴い約30分の短縮となり、最短で約1時間20分で移動ができるようになります。しかしながら、現在は武雄温泉駅での対面乗換方式となっており、乗換が必要となることから「不便」であるとのご意見を頂くことがあります。「乗換してまで新幹線には乗りたくない」ということは避けなければなりません。

経済効果については、やはり全線フル規格にしなければ、投資した税金を回収できません。武雄温泉～長崎間の費用対効果は0.5であり、同区間の6,200億円の事業費用のうち、今後の経済効果等で3,100億円しか回収できないという試算です。経済効果で見ると、このままでは新幹線を作らない方がよ



かったということになります。一方、全線フル規格が実現した場合、新島橋武雄温泉間の費用対効果は3.1となり、同区間の6,200億円の事業費は約2兆円の経済効果等を生み出すという試算になります。日本全体としては明確なメリットがあるものの、佐賀県にメリットがないという理由で、フル規格に賛同せずに結論が先送りされています。佐賀県負担分は660億円と言われています。佐賀県が、全体の9割近くは国と「元が負担するものであるにも関わらず、事態が動かないのは、まさに政治問題です。私としては、佐賀県の主張も理解できるため、国が財政負担を行ってでも日本全体の利益を目指すべきとの主張で、今後も取り組んでまいります。

東海道新幹線の運転士をしておりましたが、その経験も踏まえて、東海道・山陽新幹線という日本の大動脈に直通してこそ西九州新幹線と確信しております。

水産業の振興「長崎白鉄火プロジェクト」



鉄火巻きといえば、全国的にはマグロが主流なのですが、長崎ではヒラスやブリが巻かれた「白鉄火」が出されます。居酒屋さんでも締めめに白鉄火が出されるところもあり、召し上がったことがある方も多いのではないでしょうか。長崎では当たり前でも全国的には珍しい「白鉄火」をもっと認知してもらおうという取り組みが始まっています。

一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会様が主体となり、関東や関西で行われた「長崎のふつは世間のふしぎ展」という取り組みでも、マグロの鉄火巻きに比べて、コリコリと歯応えのある白い鉄火巻きが長崎の当たり前の一面面として取り上げられました。県内の有名スーパーマーケットチェーンでも九十九島産の養殖ヒラマサを使った白鉄火が販売されており、9月の発売開始から売れ行きは好調で人気の定番商品になりつつあるとのことでした。長崎市内の飲食店でも今後さらに白鉄火が定番メニューとなるように仕掛けていきたいと考えています。

長崎県の水産業は全国でもトップクラスの実績を持つ大きな産業の一つです。水産業をもっと推進していくために、現場の皆様方と共にこれまでさまざまな取り組みをしてきた。地元スーパーマーケットのご協力に伴ったブランド魚の流通支援や長崎県漁業協同組合連合会様のウェブサイトにおける全国への販売促進などもその一つです。これから年末に向けて、家族の皆様と共に囲む食卓に、長崎県産のお魚が並び、あたたかい団らんの時がもたれますようにと願っております。

インターン生受け入れ

議員になって毎年2回、長崎県下で学ぶ大学生をインターン生として受け入れています。今夏は長崎県立大学国際経営学部1年の市山周裕君が中村事務所に来てくれました。市山君は世の中に貢献したいという思いが非常に強く、「発展途上国の貧しい人々のために働きたい」という志を持って大学に入学し、1年生の夏に早速私のところに飛び込んでくれた姿に、「全力で応援したい」と思わせてくれる学生でした。

さらに市山君はインターン期間の前に、実際に発展途上国の人々の暮らしを知るため、非常に貧しいと言われるフィリピンのスラム街である「トンガ」という地域に行くという、凄まじい行動力を発揮してくれました。トンガはゴミで溢れたスラム街で、不衛生で生活もままならず、食事にも有り付けず、働く意欲もそがれるような地域だったそうです。



市山君は、私の元でのインターンの取り組みの中で、この問題解決のために積極的に政策立案してくれました。私の周りでフィリピンからの技能実習生の受け入れなど、ご縁にも恵まれました。インターンの最後には、各インターン生の成果報告会である、「未来自治体発表会」で立派な発表をしてくれました。今回は長崎の他の学生の頑張りでも全国大会出場は敵いませんでしたが、本当に頑張ってくれました！

市山君は佐世保在住で直接会うことができなかつたため、毎回Zoomでの議論となりましたが、私にとっても貴重な経験もさせてもらいました。これからも長崎の若者に対して、明確なアクションを示しながら、私も学生と共に成長していきたいと思っています。

放課後子ども教室



写真は私が連合自治会長を務めておりますみなと坂の中での『放課後子ども教室』の様子です。放課後に子どもたちが集まって、自然を学ぶネイチャーゲームを行っています。自治会や民生委員の有志の方々と、週に1度運営しています。近隣公園でのネイチャーゲームだけでなく、図書館での自習や読者、小学校グラウンドでの自由遊びや球技などを、実施また今後実施予定です。

『放課後子ども教室』とは、Eの年度から文科科学省が推進している事業であり、長崎市の実施要項にも次のように記載されています。『放課後又は週末等に小学校等を使用し、地域と学校が連携・協力して、学習や様々な体験・交流活動の機会を提供することにより、全ての子どもの安全・安心な活動場所を設けることを目的とした事業である。』

私の思いとしては、『他者を思いやる心』が今後の日本において、極めて重要であると

考えています。右肩がりの成長が望めない中、ボランティアの意義はより重くなっていると考えています。時間がある方、リタイアされた方の中には、「人のためになる、やりがいのある活動をしたがどうすればいいかわからないし、周りにその仕組みがない。」とおっしゃられる方がいらっしゃいますが、その仕組みを整えることが、議員や行政の仕事だと思っています。「地域の中で、ご年配の方々と子どもたちがお互いに支え合っていく社会を実現したい！」これが私が議員を志した理由の一つです。

議員となり、何とかこの思いを実現させたく、地元の自治会や民生委員、また小学校友会のみなさんにも働きかけていく中で、ようやく実現に至りました。私の地元でのこの経験を踏まえ、今後は長崎市や県の他の地域においても、同様の活動を展開できるように、取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対策に要する経費

有症状者への抗原定性検査キットの配布等（陽性者判断センターの設置、運営、検査キットの配布体制整備）	1億7百万円
休日外来診療医療機関の確保（協力金：10万円/日、小児対応3万円/日 加算）	2億47百万円
高齢者施設等職員時への集中検査支援	1億27百万円
医療機関におけるPCR検査機器等を支援（PCR検査可能数：7970件）	3億18百万円
生活困窮者自立支援金（申請期限延長等に伴う所要額の増額）	9百万円
飲食店利用拡大キャンペーン（1店舗あたり20万円、1,000円券1枚/回・人、R4.11～R5.1）	4億52百万円

中小企業等支援

事業継続のための給付金（国の事業復活支援金に上乗せした給付金支援、1事業者あたり最大20万円）	2億75百万円
緊急資金繰り支援の融資枠拡大（既往債務の借換え等に対応するため金融機関への預託額追加）	16億60百万円

漁業取締船の

お気軽に、ご相談ください。

中村たいすけ

080-5202-5721

長崎市みなと坂1丁目

✉ nakamura.taisuke.nagasaki@gmail.com